次代の小・中一貫教育を拓く三鷹らしい義務教育学校の在り方について【概要】

※報告書の内容を元に三鷹市教育委員会事務局作成

第1　義務教育学校とは何か

○ 義務教育学校は一人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間を一貫した教育を行う学校（三鷹の「学園」は、組織上独立した小・中学校が連携して小・中一貫教育に取り組む）。

○ 義務教育学校は、多様な他者との関わりの中で学ぶことや個別最適な学びといった今日的な教育課題との相性がよく、学びの質的充実に資する制度。

第2　なぜ、今、三鷹市において義務教育学校なのか

1　三鷹の小・中一貫教育の更なる進化の契機

義務教育学校制度の導入により小・中一貫教育の更なる充実を図るとともに、小・中一貫教育の理念や目的を再認識する機会とする。

2　三鷹の目指す教育の先導

義務教育学校の特性を生かし、多様な他者との関わりの中での学びや個別最適な学びなど三鷹の目指す教育の取組を先導する。

3　国立天文台周辺のまちづくり

国立天文台周辺まちづくりにより、一体的な校地・校舎などの物理的条件を充足。

第3　「新おおさわ学園」（仮称）（※）の目指すべき方向性　（※）報告書における便宜上の呼称

1　新おおさわ学園が目指す教育～4つの学びの視点～

義務教育学校の特性を生かしつつ、これまでのコミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育を進化させるリーディング校として、次の4つの学びの視点を重視する。

地域と連携した学び	9年間を通した学び
多様な他者との学び	個別最適な学び

2　考えられる具体的な取組

（※）学校3部制：学校教育の場（第1部）、多様で豊かな活動や体験ができる放課後の場（第2部）、地域の多様な活動の場（第3部）として学校施設を活用する考え方。

三鷹探究科（仮称）を中核とした探究的な学び

○小・中一貫教育に必要な独自教科として、三鷹探究科を設定　○国立天文台と連携
○地域と協働しながら、キャリア形成や地域・社会の課題を題材とした課題解決力の向上を図る
○STEAM教育など教科横断的な視点を重視　○各教科等にも探究的な学びの要素を導入
○学校3部制（※）と連動し、多様で豊かな「新しい放課後」として学びや体験機会を充実

地域と連携した学び

○地域とともに教育課程を構築
○大沢の地域資源や企業、大学、地域人財と連携

9年間を通した学び

○9年間の探究的な学びで科学的思考法を育成
○段階的な教科担任制　○連続性・系統性の向上

多様な他者との学び

○様々な場面で異学年との学び、交流を活用
○多様な教職員や地域住民との関わり
○防災拠点等の施設の特性を生かした学び

個別最適な学び

○一人ひとりの特性や関心を踏まえた学習活動
○小学校・中学校を超え、習熟度等に応じた対応
○教育支援の充実

教職員組織とスクール・マネジメント

○自由度、裁量の向上による自主性・自律性の高い教育活動や弾力的な運用による質の高い教育　○教職員の多様化と業務の平準化

新たな学びを支える

義務教育学校制度

第4　他の学園への成果の波及

○ 三鷹探究科の展開など、新おおさわ学園の実践の考え方や手法を他の学園でも活かす。

○ 7学園が互いに学び合い、切磋琢磨し、三鷹市全体の教育の質を向上。